

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和6年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

| 番号 | 研究名 | 研究代表者 | 評価 |
|---|------------------------------------|-------------------|----|
| 2024-1 | 自転車 DX 技術を活用したサイクルルート等の整序化に向けた技術開発 | 文教大学 准教授 松本 修一 | B |
| <p><研究の概要></p> <p>DX 技術を自転車等に適用する事で、1. 自転車の快適な走行空間の創出に向けた情報支援施策、2. サイクルルートの効果的な維持管理に資する情報基盤の構築、3. 自転車の新たなヒヤリハットの類型化を行う。</p> <p><中間評価結果></p> <ul style="list-style-type: none">・多くの研究分担者との役割分担・連携を再確認した上で、一般性のある結果を導かれない。・着実に研究が進められていると評価できるが、個別要素技術の開発に留まらないよう、これらの成果を通してどのような道路行政への貢献が可能か、明確にしながら進めていただきたい。 <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none">1. 個別要素技術の開発に留まらないよう、これらの成果が統合された場合にどのような道路行政への貢献が可能か、明確にしながら進めていただきたい。2. 各研究項目において多様な実証実験や分析が実施され、個別成果は着実に蓄積されている一方で、それらの成果が最終的に「サイクルルート等の整序化」にどのように統合的に寄与するのかについては、必ずしも明確ではないように見受けられる。自転車注意喚起システムについては、実験・検証が進められているものの、最終的にどのような形態の成果として提示するのかについても整理しながら進めていただきたい。3. 研究成果については、国際会議等での発信実績も見られることから、今後は研究の成熟度に応じて、査読付き国際誌等への論文発表を通じた国際的な情報発信が一層進むことが期待される。4. 研究全体としての目標と見通し、その達成を見据えた際の各個別テーマの位置付けや関連等を明確しながら進めていただきたい。「自動車注意喚起システム」については、シミュレーション実験の検証の詳細が記載されていないため、研究目的との関連性がわかるように整理していただきたい。5. 道路管理者が自転車通行空間整備に関する調査・対策を行う際、本研究に関する DX 技術を活用できるよう、その導入の判断に必要な情報をとりまとめられたい。 | | | |

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第56回新道路技術会議において審議したものである。